



ソニー・ヨーロッパ、リーバ・システムズと協力して単品レベルRFID タグ-ビデオ記録システムを稼働開始

リーバ社 TAP 利用の、RFID、ビデオ、SAPバックエンド統合出荷証明システム

チェルムスフォード発、2007年3月22日 - RFID(無線識別、ICタグ)ネットワークインフラ・プロバイダーの先端企業であるリーバ・システムズ(米国、マサチューセッツ州、チェルムズフォード)の本日発表によると、ソニー・ヨーロッパが、リーバ社の Tag Acquisition Processor (TAP)を使用する、単品レベルRFIDタグとデジタルビデオを組み合わせた、出荷の効率化、在庫減損の削減、クレーム処理の簡略化のためのトラッキングシステムの試行期間を終わり、本格的稼働へ移行するのに成功しました。

ソニーは、個別製品ごとに RFID タグを取り付け、選別し、パレットに積み上げ、フィルム収縮包装する各段階で、タグIDを記録します。自動ビデオシステムがこの過程を記録し、RFID データをビデオ画像中に焼き込み、RFIDデータに従ってMPEG4ビデオストリームにインデックスを付けます。このシステムは、ビデオとRFIDデータを結合して、パレットが倉庫ドアを通り、トレーラに積み込まれるのを記録し、視覚的および電子的な出荷証明記録を作成します。このプロジェクトはティルブルフ市(オランダ)にあるソニー・ヨーロッパの大型配送センターにおいて最近実働化しました。ソニー・ヨーロッパの一日あたりの製品の出荷量と単価の高さから一年以内の投資回収(ROI)が見込めると同センターは期待しています。

リーバ社TAPは、厳しい動作環境での技術的困難を克服するためにソニーが必要とする高度なシステムレベル性能を保証しています。例えば6台の収縮包装装置が隣接し、各装置で時には約200個のタグが同時に読み取られ、さらに頭上にベルトコンベアが走り、製品を山積みしたフォークリフトが収縮包装装置のすぐ横を通過します。このような環境でもTAPは正確にタグの付いたケースを識別し、正しくパレットに割り当てます。そこで、タグ情報と所在位置がビデオサーバー、ソニーのバックエンドSAPシステム、およびデータ・ウェアハウスに送信されます。

リーバ社のシステムはヨーロッパ電波規制であるListen Before Talk(LBT)の下で作動し、RF帯域を最大限に利用して、1ダース以上のモトローラ/シンボル・テクノロジーのXR480リーダーを制御・スケジューリングできます。このスケジューリング以前には十分な読み取り率を達成することが出来ませんでした。このビデオアプリケーションの重要性のため、リーバ社TAPはデュアル構成で、自動負荷バランスおよび双方向データ・ミラーリング使用の完全冗長性によって単一システムのように動作します。

ソニー・ロジスティクス・ヨーロッパ B.V. のシニアマネージャであるウォルフガング・シェーンフェルト氏は「非常に厳しいRF環境であるにもかかわらず、ヨーロッパ規制に準拠しながら 100%の読み取り率と正確な位置情報を達成している。これはリーバ社TAPの能力がなければ不可能なことだった」と語っています。さらにシェーンフェルト氏は「リーバ社だけが施設全体における

RFの振舞いを理解しており、そのためにリーダー(タグ受信機)の最適利用が可能となった。それと設定の容易さ、リモート管理コンソールのおかげで、ランニング・コストは最小限に押さえられた」とも語っています。

このプロジェクトのシステムインテグレータとして、アムステルダムのみエル&アレクサンダー社が選ばれ、プロセス設計から、機器設定、TAPの組み込みJAVA環境で作動する処理作業ワークフローのプログラム開発まで全工程を担当しました。このワークフローはオペレーターに指示を送り、オペレーターの入力を受け付け、視覚・音声信号を送って種々の選別・出荷作業を調整します。また、リーバ社TAPの標準インターフェースを通してソニー・ヨーロッパの全受注システム、およびSAP倉庫管理システムに統合されています。

リーバの最高経営責任者、トム・シュースター氏は「ソニーで稼働しているシステムは重要なビジネス要求を解決し、無視できない投資回収が見込まれる、という意味で典型的な次世代RFIDプロジェクトです。ソニーにおけるリーバ社TAPの成功は、施設レベルでの「RFIDネットワークインフラ」が、正確で活用可能なRFIDデータを現場で得るために必須であることの証明です。リーバ社特許の位置特定技法により高品質となったRFIDタグデータがあつてこそソニーのSAPはそのデータをすぐにビジネスプロセスが必要とする情報に変換することが可能になるのです」と語っています。

リーバ・システムズについて

リーバ・システムズは、どのような環境でも顧客がスケーラブルなソリューションを迅速に展開するのを可能にするRFIDネットワークインフラ製品を開発しています。標準規格に基づいたリーバのTag Acquisition Processor (TAP)製品はシステムのタグ読取り能力、管理のしやすさとセキュリティを向上させる一方、設置時間を減らし、システムを簡素化します。リーバ製品はパートナーの世界的なネットワークによって提供され、世界中の企業において革新的なRFIDアプリケーションを実現させ、様々な産業で付加価値を生み出しています。リーバは2004年に設立され、本社は米国マサチューセッツ州ボストン市郊外チェルムズフォードにあります。詳細は、www.revasystems.com (英語版)を御覧ください。

*Reva, Reva Systems, Tag Acquisition Processor*はReva Systems Corporationの商標です。その他すべての商標はそれぞれの所有者に所属するものです。

メディア連絡先:

Pamela Nelson
Reva Systems
978-337-3153
pnelson@revasystems.com

###